

図画工作科学習指導案

東広島市立小谷小学校 和田留美子

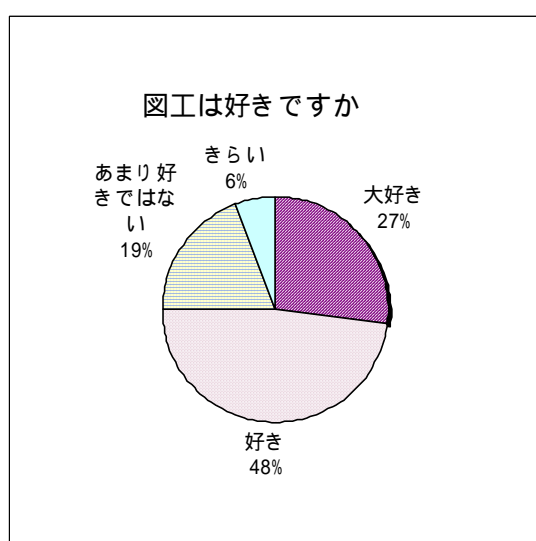
片岡 恭子

- 1 学 年 第6学年2・3組 52名
- 2 場 所 図工室・6年3組（コース別）
- 3 題材名 アーティスト誕生！in KODANI
～ 進化編「ONLY ONEの空間」～（絵・立体）
- 4 題材について

本題材では、「小谷のアーティスト」になった自分もっているいろいろな「思い」を感じ、それをイメージ化させて表現するものである。材料は「紙」と「プラスチックシート」の2コースに分けて行う。自分だけの限られた空間の中に、小谷のアーティストとなって自分なりの表現方法を見つけ、自由に発想し材料を工夫して使うことで、自分の思いを最大限に表現できるものとしてこの題材を設定した。

本学級の児童は、アンケートの結果からもわかるように75%の児童が「好き」と答えている。絵が好き、つくるのが好き、いろんな物を使って作るのが好きと理由は様々だが、中でも自由に表現できることや自分のアイデアを生かせることなど、自分らしさを表現できることが好きな理由としてあげられている。しかし反対に、上手にできない、うまくできない、アイデアが浮かばない、思ったことを上手に表現できないという理由から嫌いと答えている児童も25%いる。そしてこの時期、児童は自分の周りに起こるいろいろなことに心動かされることが多く、その思いを何らかの形で表現したいと思ってはいるものの、「うまく表現できない」「どう表現すればいいかわからない」と感じている。

実態調査



平成15年7月実施 6年児童52名

好きな理由

みんながうからすき
自分のアイデアで作る事ができる
自由に表現できる
作るのが楽しい

嫌いな理由

思うようにできない
うまくできない
見本がないからできない
アイデアが浮かばない

指導にあたっては、まずは社会見学で美術館に見学に行って、いろいろなアーティストの作品を鑑賞させることで、多様な表現方法があることに気付かせたい。そして「自分も小谷のアーティストになるんだ」という意識を持たせ、自信と安心感を持って作品作りに取り組ませたい。そのためには、自分が五感で感じ取ったことをイメージ化させて作品にすることを多く体験させたり、休憩中でも自由に作品作りができるような場所も設定したりして、創造活動がいつも身近なものとし感じられるようにする。また、常に自分の思いを振り返ったり友達の違いも知ったりして、心の開放もはかって行きたい。

題材全体を通して、かかわりという視点から次のように考える。

自分とのかかわり	・自分はどんな「思い」をもっているのか振り返り、それをイメージ化させて自分なりの表現ができる。
人とのかかわり	・友だちの思いを知ったり、表現のよさに気づいたりすることができる。
地域・モノとのかかわり	・美術館でいろいろなアーティストの作品に触れることで、「自分たちにもできる」という創作意欲を高める。 ・自分の身近にある材料を工夫することで多様な表現ができることに気づく。

5 題材の目標

イメージしたことを自分なりの方法で平面や半立体・立体に表すことを楽しみ、表したい感じに合わせて表現方法を選んで、効果的に表現する。

友達の作品の思いや表現方法のよさに気づくことができる。

6 題材の評価規準

A 表現	ア 造形への関心・意欲・態度	イメージしたことを自分なりの表現の仕方では平面や半立体・立体に表すことを楽しもうとする。 技法や用具・材料など自分の表現方法に合わせて選ぶとする
	イ 発想や構想の能力	表したいもののイメージを広げる。 材料に働きかけ、イメージに合った構成をする。 作品の仕上がりを見通し、計画的に活動を進めている。
	ウ 創造的な技能	表したい感じになるように技法を生かしている。 自分の思いを大切に表すために、材料の形や色・組み合わせを工夫している。
B 鑑賞	エ 造形への関心・意欲・態度	材料や用具を選んだり、試したりしてできた感じの美しさやおもしろさを味わい、表現に生かそうとする。
	オ 鑑賞の能力	美術作品や友達の作品のよさに気づき、メッセージを感じ取る。

7 指導計画（全9時間）

次	学習活動（時数）	評価規準	評価方法（	）		
1 次 (2)	<div>アーティスト作品を見て感じて楽しもう！</div> <div>美術館の作品を楽しみながら鑑賞して「心 ひかれる作品みつけ」をする。（ 1 ）</div> <div><div>プラスチックシートコース 「光」を使って作品 づくりをするアーテ ィストになることを 知り，光の効果を利用した作品のイメ ージを持つ。（ 1 ）（光 スポットのあたる場 所提示）</div><div>紙コース 紙を使って作品 づくりをするア ーティストにな ることを知り，紙 の性質を生かし た作品のイメ ージを持つ。（ 1 ）</div></div>				オ	作品のよさに気づき，いろいろな表現 方法を知り，作品からのメッセージを 感じ取る。（発言 鑑賞カード）
2 次 (6)	<div>ONLY ONE の空間をつくろう</div> <div>自分だけの空間に入れたいもののイメ ージを広げる。（ 2 ） （「アーティストの心得」提示）</div> <div>「ONLY ONE の空間」作りをする（ 4 ） （本時 2 / 4 ）</div>				イ ア イ	自分の空間の中に入れたい「思い」を イメージ化して構成する。 （イメージデッサン・「心」カード） 技法や用具・材料の使い方など自分の 表現方法に合わせて選ぼうとする 自分の表したい感じを画面構成する。 （イメージデッサン）
3 次 (1)	<div>「ONLY ONE 展」開催</div> <div>友達の作品を鑑賞する</div>				オ	友達の思いや表現のよさを見つけよ うとする。（鑑賞カード）

8 本時の目標

自分の思いに合わせて、材料を工夫し、自分らしい表現をすることができる。

プラスチックコース

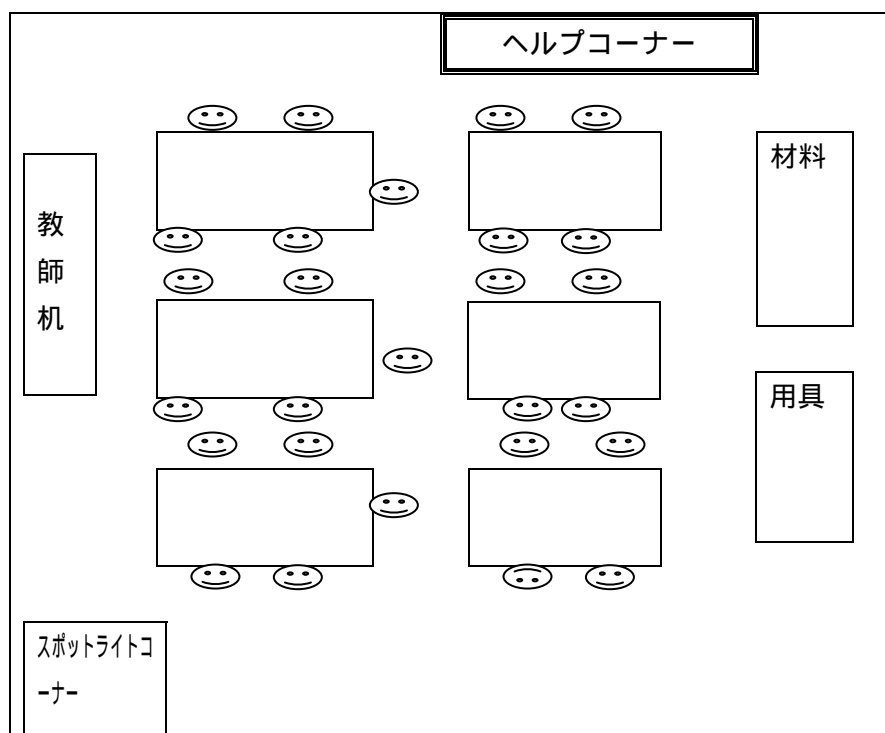
9 準備物

(児童) はさみ カッターナイフ のり 木工用ボンド それぞれが集めた材料
(指導者) ホットガン 接着剤 てぐす 透明素材 照明

10 学習過程

学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価
1 本時のめあてをつかむ。 「光」を利用した ONLY ONE 空間をつく ろう	「アーティストの心得」より 自分なりの表現をやってよ いことを確認し、制作意欲を 高める。	ア 作ることを楽しもうと している。(行動)
2 イメージデッサンをもと にしたり、制作しながらアイ デアをふくらませたりして つくっていく。	自分の思いを表すため、効果 的な表現方法を試しながら やってもよいことを伝える。 制作途中でイメージが変わ ることがあってもよいこと を知らせる。 途中、行き詰まったときは友 だちの作品を鑑賞したり、友 だちに感想を聞いたりする ようアドバイスする。 接着方法・組み立て方法が思 うように行かない場合はヘル プコーナーを利用させる。	ウ イメージデッサンやア イデアをもとに材料を生 かした使い方をしている。 (作品・行動 発言) オ 友達の作品から表現の よさや思いを気づく (作品・行動・発言) ウ 表現に合った技法を選 んでいるか (作品・行動)
3 学習のまとめをし、次時の 学習をつかむ。	本時の学習をふり返り、次時 の学習につなげられるよう にする。	

プラスチックコース



アーティストの心得

- 1 アーティストはいつも感動をしている
- 2 アーティストはチャレンジャーである
- 3 アーティストは自信を持って活動をしてよい
- 4 アーティストはしっかりなやんでよい
- 5 アーティストはあなたのとなりにもいる

紙コース

9 準備物

(児童)ダンボール 画用紙 色ケント 障子紙 新聞紙 絵の具道具 はさみ

カッターナイフ のり 木工用ボンド それぞれが集めた紙

(指導者) 接着剤 カッター板

11 学習過程

学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>とっておきの一場面(瞬間) を「ONRY ONE の空間」 としてつくる。</p> </div>	<p>「アーティストの心得」より 自分なりの表現をやってよ いことを確認し,制作意欲を 高める。</p>	<p>ア 自分なりの表現方 法で作ることを楽し もうとする。</p>
<p>2 イメージデッサンをもと につくっていく。</p>	<p>紙を使った表現方法の工夫 (切り方 折り方 つけ方 組み立て方など)自分なりの 表現に合う方法を利用させ る。 どのように表現してよいか 困っている児童には,イメー ジデッサンを振り返り,それ に合う表現技法を探すよう 助言する。 制作途中でイメージが変わ ることがあってもよいこと を知らせる。</p>	<p>ウ 表したい感じになるよ うに技法を生かしている。 (作品・行動 発言) ウ 自分の思いを大切にし た表現にするために,材料 の形や色,組み合わせを工 夫している。(作品・行動) イ 作品の仕上がりを見通 し計画的に活動を進めて いる。 (作品・行動)</p>
<p>3 学習のまとめをし,次時の 学習をつかむ。</p>	<p>本時の学習をふり返り,次時 の学習につなげられるよう にする。</p>	